



▲オグロシギ チドリ目 シギ科
体長40~44cm。上総では旅鳥、県要保護生物。
チゴガニをくわえている
=2011年10月13日木更津市 筆者撮影

鳥はいなかつた。だが、引き潮で現れた泥浜で、大きさ約1cmの無数のチゴガニが白いはさみで盛んにえさをつまんでいた。

すると川下の土手の陰から、ハトより一回りほど大きいシギがジグザグに水際を歩いてきた。

くちばしがピンクで長く、まつすぐ。尾の先が黒っぽい。

「あ！オグロシギ。今年はじめての珍客」。

彼？は、左を見たり右を見たりして、ここぞと思う所にくちばしを目元まで差し込む。時に、潮だまりの中にも何度も差し込んでいる。その度に泥まみれの円いものをつまみあ

る。

「堅そなくちばしはどうやってえさを探りあてるのだろうか？」と不思議に思った。



▲水際でえさをあさるオグロシギ
12cm以上深いところまで泥を探る
=2011年10月13日木更津市 筆者撮影

「今日は晴れだ。風もない」となるととたんに元気が出る。大急ぎで、仕事をすませて、撮影に出かけた。

「小櫃川の川岸は久しぶりだ。もうセイタカアワダチソウの花が咲いているのか」と季節の移ろいの早さに驚きつつ、川をのぞいた。

川上や川下や対岸を眺めてみたが、鳥はいなかつた。だが、引

き潮で現れた泥浜で、大きさ約1cmの無数のチゴガニが白いはさみで盛んにえさをつまんでいた。

すると川下の土手の陰から、ハトより一回りほど大きいシギがジグザグに水際を歩いてきた。

くちばしがピンクで長く、まつすぐ。尾の先が黒っぽい。

「あ！オグロシギ。今年はじめての珍客」。

彼？は、左を見たり右を見たりして、ここぞと思う所にくちばしを目元まで差し込む。時に、潮だまりの中にも何度も差し込んでいる。その度に泥まみれの円いものをつまみあ

る。

「堅そなくちばしはどうやってえさを探りあてるのだろうか？」と不思議に思った。

オグロシギなど、泥浜でえさをとる鳥のくちばしは先端に神経が集まつていて、獲物を見分けるセンサーのような役割をする。また、しなやかでゴカイやカニやカイなどを捕え、泥をよけて獲物を引き出せるのだそ

かずさの博物誌

オグロシギ

～たくましい駿馬の ような中形シギ～

文・写真／成田篤彦

2011.11.20



▲川岸を歩くオグロシギ、右はイソシギ
=2011年10月13日木更津市 筆者撮影

うだ。

ところで、オグロシギはヨーロッパ、中央アジア、ロシアから極東地域で繁殖する。北部で繁殖するものは冬期に南に渡る。また、はす田や干潟などでえさをとり、内陸の水田にもやってくるそうだ。ちなみに、学名*Limosa*は「沼地を好む」の意味。オランダで次のような話がある。

世界鳥類事典（1996 同朋舎出版）によるところのシギは草が茂る湿った牧草地で繁殖するが、ここ半世纪で草刈りの機械化が進み、飛べないヒナが殺されるようになった。その結果、早く繁殖し、草刈り前にヒナが飛び立つものが生き残り、現在のオグロシギは50年前より平均2週間早く繁殖するようになったという。

このシギも人々の活動による環境変化に適応して生きているのだと予想もしていなかつた。

オグロシギは、上総では旅鳥として春と秋に渡来する。春は数が少なくて、秋は主に幼羽が見られるという。また、今年度の千葉県レッドデータブックでは、要保護生物（Cランク）に新たに指定された。

その理由は東京湾岸や九十九里浜地域で普通に見られていたのが、近年、激減したからだという。

いずれにせよ、小櫃川河口付近の自然には彼らのえさになるカイやカニやゴカイなどが無数にいて、ここは、彼らにとつて、かけがえのない渡りの中継場所である。いつまでもこの自然を残しておきたいものである。